



# キャンパスの広さと、活躍の場の広さ

文&写真

学生記者

高瀬杏菜 (法学部4年)

中央大学へ向かう多摩モノレールはいつもと違う光景だ。10月23日。年に一度のホームカミングデー。大勢の先輩方がキャンパスで旧友らと再会を果たす。そうした高揚感なのだろうか、車内には「Cマーク」の帽子を被った人の姿が目立った。

2年前にも参加した。いつもと違う特別な日は、私にとって中大の「広さ」を実感する1日でもある。広さとは、ただ単に多摩キャンパスが広いということではない。先輩たちが様々な分野で力を発揮する「活躍の場の広さ」、私たち現役学生にエールを送ってくださる「心の広さ」。双方を身に染みて感じるのだ。

「活躍の場の広さ」では先輩方の多様性に驚く。芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋…。この日の多摩キャンパスではそのどれもが、各界の専門家の指導で体感できる。

今話題の映画『君の名は。』を制



「中央の池」で泳ぐ錦鯉。左上は総合政策学部棟

作した新海監督らのスペシャルトーク、ことしから始まった白門駅伝大会。

生活相談コーナーには不動産鑑定士、行政書士、会計士、技術士、不動産建設、司法書士、社会保険労務士、法曹界。これらの相談がすべて無料である。

そして数多くの楽しい模擬店。1日ではとても回り切れなかった。

どの会場に行っても、先輩方は現役学生に声をかけてくださる。時に優しいトーン、時には力強い口調となるが、どの言葉にも「中央大学、頑張ろう!」「現役生に期待

しているぞ」といった母校愛が感じられる。

大盛況のキャンパスの真ん中に、憩いの場所があった。総合政策学部近くの「中央の池」。ここで錦鯉の放流式が行われた。新潟中越支部からの寄贈という。争いをせず、長生きをするため「平和の象徴」として世界中で愛される錦鯉。優雅に泳ぐその姿に、思わず時間を忘れて見入った。今後もキャンパスの真ん中で泳ぎ続けることだろう。

ホームカミングデーのこの日、改めて中央大学の広さを実感した。熱くもあり、優しくもある中央大学の一員になれたことを心からうれしく思っている。

キャンパスマップを受け取って気付いた。普段の学生生活で行ったことがある場所はキャンパスの3分の1にも満たない。多摩モノレールから法学部棟までが中心エリア。名所「桜広場」を未開拓のままにして卒業はできない。

## 学生記者に なりませんか?



『HAKUMON Chuo』は中大生が取材・編集する大学広報誌です。現在、学部在生を対象に学生記者を募集しています。

- 元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方をはじめ添削指導を受けることができます。将来どんなキャリアを目指すにも文章力が重要です!
- 取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。
- 記者活動を通してコミュニケーション能力など「社会人基礎力」を身につけることができます。

【お申し込み・お問い合わせ】  
中央大学広報室『HAKUMON Chuo』 編集担当:久保田茂信 Phone:042-674-2048(直通) E-mail:hc@tamajs.chuo-u.ac.jp